



お知らせ

MMWIN事務局からのお知らせです。

令和2年度 第1回

スマイルネットユーザーズミーティング 兼 宮城県脳卒中地域連携パス研究会 を開催しました

内 容

1.講演:「仙台市立病院のスマイルネット運用について」
- 運用開始までの流れと今後の展望 -

仙台市立病院 総合サポートセンター
医療ソーシャルワーカー 澤井 彰 様

2.情報交換

座長 清水 宏明 先生
(秋田大学 大学院医学系研究科 脳神経外科講座 教授)

2020年11月26日(木)、スマイルネットユーザーズミーティング兼 宮城県脳卒中地域連携パス研究会をWebにて開催し、15施設、48名と多くの方々にご参加いただきました。

仙台市立病院 医療ソーシャルワーカー澤井 彰様からは、スマイルネット運用は、医事課の主要事務事業として掲げられたことがきっかけであったこと、運用開始までのワーキンググループでの様子や運用フロー、スマイルネット利用実績、メリット・今後の課題等についてご講演いただきました。



仙台市立病院 澤井 彰様

情報交換として、秋田大学大学院医学系研究科脳神経外科講座教授 清水 宏明先生に司会進行していただき、各施設の現状、意見等を伺いました。

終了後に回答いただきました。アンケートでは、

- MMWINを運用している現場の声を聞いてよかった
- 他施設の導入時事例は、現在滞っている施設にも有益な情報と感じた
- 次回開催の内容について、回復リハビリ病院の紹介および取り組みの紹介してほしい

等、たくさんのご意見を頂戴いたしました。皆様から頂戴いたしましたご意見を今後の運営に活かし、スマイルネットの利活用を進めてまいります。



MMWIN

発行：一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会
〒980-0811 仙台市青葉区一番町1丁目15番19号

【事務局】 TEL：022-395-6312 FAX：022-395-6313

E-mail：office@mmwin.or.jp URL：http://mmwin.or.jp/

【サポートセンター】 TEL：022-399-6880 E-mail：support@mmwin.or.jp

当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。
『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。
※本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。

©2020 MMWIN

全医療・介護・福祉分野、職種が思いをひとつに「オールみやぎ体制」でみやぎをつなぎます



MMWIN[®] 通信
みんなのみやぎネット[®] NEWS

2020
12.25
vol. 63

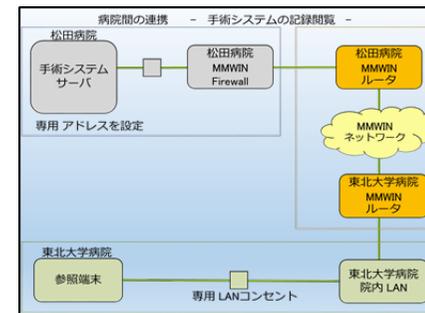
発行：みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

MMWINネットワークを使用した



『遠隔周術期管理システム』を構築しました

このたび、東北大学病院（仙台市青葉区）と松田病院（仙台市泉区）で遠隔周術期管理システムを構築するにあたり、両病院間のMMWINネットワークを使用し接続しました。両病院既存の手術部支援システム（日本光電工業製PrimeGaiaシステム）を用いた遠隔管理システムです。これにより松田病院の手術中の麻酔記録を東北大学病院で参照することができ、リアルタイムに薬剤投与情報や生体バイタル情報を確認し諸症状への対応について周術期遠隔コンサルテーションが可能になります。



◆麻酔記録の閲覧

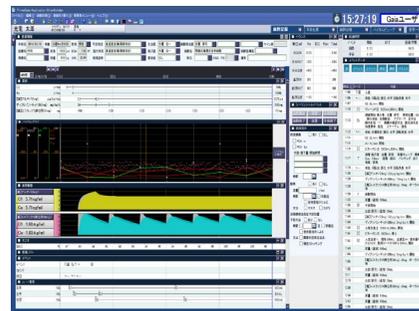
投与薬剤、患者さんのバイタル数値、心電図・血圧の波形情報をリアルタイムで閲覧することが可能です。

◆術前カンファ、周術期管理の周術期遠隔コンサルテーション

術前のカンファレンスを行うことや、術中術後の患者さんの容態を遠隔で確認可能となることで、周術期遠隔コンサルテーションが可能となり、より安全な医療の提供が期待されます。

◆重症部門システムで初の接続

MMWINでは病院間の接続により現在もカルテ参照を行っていますが、手術部など重症部門のシステム接続は初であります。今後も既設のMMWINネットワークを用いれば、他の病院との接続も可能となります。



◆遠隔医療による地域医療の発展に向けて

今回の接続により、松田病院で手術をする患者さんの情報を東北大学病院の医師と共有し、より高度な医療が可能になることで地域医療が強化されると期待されます。将来は東北大学病院と松田病院の他にもこのような遠隔参照医療が発展していくことが予想されます。

文責：東北大学病院 麻酔科 志賀 卓弥

災害に備えて

MMWIN透析連携システムを用いた患者の受け入れ訓練

大崎市民病院 吉岡まほろばクリニック

2020年12月11日、大崎市民病院と吉岡まほろばクリニック間で、MMWIN透析連携システムを用いた患者の受け入れ訓練を実施いたしました。

- ・風水害等により、吉岡まほろばクリニックで透析療法の継続が困難となり、災害拠点病院である大崎市民病院で維持透析患者を受け入れる場面を想定。
- ・透析連携システムにより、吉岡まほろばクリニックからMMWIN上に保存している透析情報を活用し、受け入れ患者の情報を共有。

当日は、要請側の吉岡まほろばクリニックより、コミュニケーション機能で患者のMMWIN健康共通IDを送信、大崎市民病院側では、健康共通IDで患者検索し、カレンダー表示から、透析データ・プロフィール情報等を確認しました。

また、大崎市民病院側にローカルID（受診歴がない）がない患者については、個別公開設定にて情報共有する操作体験も実施いたしました。

送る側

吉岡まほろばクリニック



コミュニケーション機能
利用しメッセージ送信



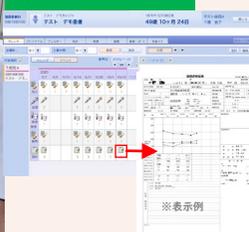
メッセージの返信

受ける側

大崎市民病院



該当患者検索
透析経過記録を確認



受け入れ訓練を終えての感想

吉岡まほろばクリニック：【技士長】武田臨床工学技士

- ・昨年の台風19号では大崎市民病院に約42名の患者を移送したが、すべての患者情報をFax送信するのに半日掛かった。この機能が活用出来れば本当にいいと思う。
- ・個別公開設定一括で患者を紹介できると災害時の運用に大いに活躍すると思う。
- ・今後の要望としては、紐付け患者の検索が“透析患者”“ベースメーカー装着”とわかるように検索できるチェックボックスがあると、施設での管理もしやすくなる。目に見えない患者情報がわかるようになれば、災害時、緊急時に活用出来ると思う。

大崎市民病院：【透析センター】富士原主任看護師
由利主任臨床工学技士、川村臨床工学技士
【地域医療連携室】佐々木係長

- ・タブレットでの参照だったが、全体的にスムーズ感、手軽さ感あり、思った以上に良かった。
- ・前回の受け入れの際はFaxだったが、MMWINを利用すれば、時短になり、スムーズに連携できると感じた。
- ・コミュニケーション機能は、複数の透析施設間でグループを作り、情報共有ツールとしても活用できると思った。
- ・経過記録表の内容は確認できた。薬の情報、シャントの情報も含まれるようになるといい。
- ・今後、連携する透析機関で様式が統一されていくといい。

仙台市
太白区

とみざわみなみ眼科クリニック

院長 高野章子 先生



「みやぎ眼科連携システム」に参加
いただいている、とみざわみなみ眼科
クリニックで、患者加入活動を実施い
たしました。



「とみざわみなみ眼科クリニック」は、2017年3月よりMMWINの運用を開始され、2018年8月には「みやぎ眼科連携システム」に加入されております。

今回、MMWINの「みやぎ眼科連携システム」による眼科間でのより良い診療連携を図るとともに地域の中核病院との連携の強化を目的に、患者さんのMMWIN加入を促進する活動をご提案させていただきました。

加入活動のご提案に対し、高野章子院長からは、「コロナ禍であり活動にあたっては感染防止に十分な配慮をしてほしい」、「加入活動をしていることを患者さんがわかるようなお知らせを掲示してほしい」という2点についてご要望がございました。



感染防止への対応として、加入活動中は密にならないように十分注意し、かつ、なるべく簡潔にご説明するようにいたしました。

また、事前周知については1ヶ月前から加入活動の事前通知案内を掲示していただきました。（左記）

週2回、午前中のみではございましたが、待合室にて患者さんにお声がけを行わせていただき、11月、12月の2ヶ月間で約100名の方がご加入下さいました。

今般、コロナウイルス対策に慎重な対応が求められる中、高野章子院長をはじめスタッフ方々に大変なご支援・ご協力をいただきましたこと、感謝申し上げます。

このような時世でも施設の要望に応じて柔軟に対応できますので、MMWINへの加入活動支援のご要望等がございましたら、お気軽にご連絡を賜りますようお願いいたします。

今後も、参加施設や患者さんのお役に立つシステムとして活用いただけますように、全県での加入活動を進めてまいりたいと考えております。今後とも一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。